

わっか

まちのわかを応援する情報誌

冬

2015 WINTER
WAKKA
vol.18

- 02 まちのわっか
 - ・トットリノススメ
 - ・トリの話しba
 - ・住もう鳥取ネット
- 05 がんばる商店街
 - ・鹿野街道筋振興会
- 06 とっとりまちづくり
 - ・リノベーションによるまちづくり
- 08 お知らせ・イベント情報

ご自由
にお取りください
TAKE FREE



一緒にやれる仲間に巡り合えた事に
とても感謝しています



このチームに参加して”ああ、コミュニティって
こういうことなんだ”と実感しています



参加する前は『トットリノススメ』が
よくわからなかった(笑)



今年のトットリノススメに感銘を受けて、
今年初めてイベント主催者として参加しました



最初は不安でしたよ
”私なんかには何ができるんだろう・・・”と

トットリノススメ

街を歩いて、発見して、頭の中の地図を書き換える月間。

トットリノススメとは「つながり」

イベント活動の集合体で、大きな網のようなつながりを持つ各主催者がそれぞれ独立採算で活動を行っています。そのつながりは毎回互いに刺激しあいながら草の根的に広がり、今年は10月24日から12月7日までの間を『街を歩いて、発見して、頭の中の地図を書き換える月間。』として、鳥取市中心市街地のほか、倉吉市や湯梨浜町の各地で20種の様々なイベントを繰り広げています。

- ・トットリノススメ オープニング～はじまりの楽し
- ・vol.1 pass the culture
- ・とっとり一夜城のススメ
- ・トットリ式屋台楽宴プロジェクト 2014 秋の
- ・きむらとしろうじんじん「野点」2014 in
- ・酒と音楽とエロの芝居小屋「のぞきからく
- ・HOSPITALE
- ・川端賑わい日ー古本と暮らしの蚤の市ー



〈写真上〉チーム・トットリノススメ。左から本間 公(ほんま あきら)さん、赤井 あずみ(あかい あずみ)さん、小谷 真之介(こたに しんのすけ)さん、山根 卓也(やまね たくや)さん、森木 陽子(もりき ようこ)さん

- 第1回 2月『不動産屋のウラ話』山根 卓也さん(角輪工業(有))
 - 第2回 3月『空き家がまちをたのしくする』本間 公さん(工作社 代表)
- (内容等変更になることがあります。)

〈写真右〉チーム・トットリノススメのメンバー
 〈写真下〉11月18日に行われたトットリノススメのイベントの「トリの話しba」の様子



トットリノススメでつながったみなさんにお話を聞きました。

— どのようにつながっていったのですか。

赤井さん「以前から行っていたイベントに関わっていた人たちを中心に、本間さんが手がけた店舗のオーナーが参加して、トットリノススメは始まりました。」

森木さん「私が参加したのは2年前です。その時に開かれていた打ち上げに出席したことがきっかけでした。最初は不安でしたよ。私なんかは何ができるんだらう...と。」

山根さん「私は、昨年の『ブンカ夜トーク』に出演していたゲストに感銘を受けて、リノベーション事業などで本間さんと交流を深めていました。そして今年初めてイベント主催者として参加しました。」

本間さん「チーム・トットリノススメはこんな風にメンバーが多彩で多様なんです。ですから、毎年固定したメンバーなんていないですね。その時そこにいる人達で始めちゃう(笑)。」

小谷さん「参加する前は『トットリノススメ』がよくわからなかった。誰がいつ、どこでやってるんだらう、(笑)。」

本間さん「実は私もです。独立したイベントの集まりなので、顔は出しますが、全てを把握しているわけではありません。気持ちは参加者です(笑)。」

— トットリノススメのこれから...。

赤井さん「そんな本間さんが、昨年『トットリノススメの開催をやめようか』と書いている『って言ったんです。』」

本間さん「その時に今までの仲間や新しく加わった仲間たちに、トットリノススメに刺激を受けた、感動した。一緒に手伝うから今年も開催してほしい」と励ましてもらいました。うれしかったですね。」

赤井さん「よくコミュニティという言葉を目にし

ますが、私は正直ピンとこなかったんです。でも、このチームに参加して、ああ、コミュニティってこういうことなんだと実感しています。」

本間さん「この活動を通じて、トットリノススメに感じて一緒にやれる仲間巡りに巡り合えた事にとても感謝しています。2月には、若手事業者や学生たちと連携して空き家活用実証イベント『空き家BAR』を予定しています。今後も、様々な出会いを大切に、つながりが広がっていったらいいと思います。」

本間さんが語る トットリノススメのはじまり

家

具づくりを学び、海外を放浪した後に1997年に鳥取に帰った頃、県外からの知人に市内を案内していた時です。その人が「鳥取には面白い人がたくさんいるから、何かイベントをやってみないか」と言われました。その時は漠然としていたのですが、海外を放浪して色々なまちを見てきた経験もあり、少し興味もありました。それが2008年の第一回トットリノススメという形で具現化しました。

今、市街地に空き店舗や空き家等の遊休不動産が増えていることを危惧する声もありますが、私たちはそれを「まちの余白」「つまり、遊び場」と思っています。興味のある人や共鳴できる人が集まる場だという部分を大事にしていきたいですね。



ほんま あきら
本間 公さん

鳥取市出身。岐阜県高山市で木工を修行し海外へ放浪の旅に出たあと鳥取市に戻り1997年に工作社を設立。のちに店舗内装も手掛けるようになり、その仕事を通して知り合った仲間たちと2008年にトットリノススメを開催した。

今後の
 取り組み

(予定)

空き家トークBAR

一週間限定の日替わりBARとしてオープンします。これは、実際に空き家を使ってやってみたい企画を実現するもので、来場者が自由に集い交流する場です。



vol.126

テーマ 『住みたいところ』



グラフィックデザイナー 小谷 真之介 さん



発言したことが実現できそうと思えるところが良い

まちのコミュニティが出来る場所(交流の場)が必要である

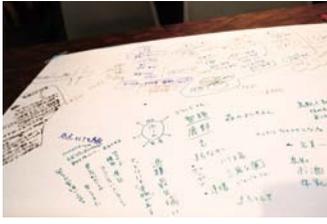
歩いて仕事場、保育園、カフェなどにいける場所に住みたい

鳥取の良さはここにある

都会感+トットリらしさのあるまち



（写真右）グループに分かれてテーマについて話し合う様子
（写真左）模造紙に書き綴られたテーマ



ト リの話しbaとは、鳥取市在住のグラフィックデザイナー小谷真之介さんを中心にした『トリの巣企画』のメンバーが、ほぼ月に一度のペースで開催するイベントです。そのコンセプトは、性別や年代などにとらわれず人と人がつながる“場”を生み出し、共通のテーマについて話し合うことで参加した人に何かを感じてもらい、結果的にまちにより変化が起きることを願っている、というものです。

11月18日、本通ビル3Fのcafe SOURCE banquetを会場に、54名の参加者を迎えて『トットリノススメ』イベントの一つとして開催されました。

前半は、トットリノススメの企画者である本間公(あきら)さんの活動について話があり、後半は今回のテーマである『住みたいところ』について、4名グループで自由に話し合っただけを模造紙に書き綴る、その後メンバーを入れ替えて繰り返し話し合う、という“ワールド・カフェ”方式で進行されました。

参加者はドリンクを片手に、新しい発見や価値観、アイデアや情報に出会い、リラックスした時間を過ごしました。そして、改めて『トットリの良さ』を再認識したという意見が多数出たのが印象的でした。

『トリの話しba』の詳細はこちらへ
<http://torinohanashiba.jimdo.com>

住まいの総合相談窓口

住もう鳥取ネット

まちなかに住みたいけど、どんな物件が良いかなあ... まちなかの土地や空家を持っていて、活用方法を検討したい... うちが耐震改修が必要なのだろうか... リフォームなどの融資制度についても知りたい... 中心市街地での住まいや土地活用に関してお悩みのときは、『住もう鳥取ネット』におまかせください。関係機関と連携を取りながら、相談員があなたのお悩みにお答えします。

よくある相談 Q&A

※回答は一例です。状況によって様々な解決策がありますので、まずは住もう鳥取ネットにご相談ください。

- Q** 街なかに土地を購入しての転居を考えています。売り土地情報を教えてください。
- A** 「住もう鳥取ネット」のホームページでは、中心市街地の物件検索コーナーを設けています。「住もう鳥取ネット」で検索→「住まいを探す」→街なかの売り地や賃貸物件の情報を検索することができます。また、個別の物件については各不動産業者へ問い合わせしてみてください。
- Q** 賃貸住宅の退去時の補修費用はどこまで負担する必要がありますか。
- A** 国土交通省がまとめた「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」では、退去時の原状回復の基本的な考え方をまとめています。その中では、
 - (1) 建物・設備等の自然的な劣化・消耗や、通常の使用により生ずる損耗等の修繕は、貸主の負担
 - (2) 借主の故意・過失・善管注意義務違反、その他通常の使用を超える損耗等については借主の負担とされています。
 このガイドラインを参考にしながら、家主と話し合みましょう。



にしお わたる 西尾 渉 相談員

住もう鳥取ネット
 〒680-0036
 鳥取県鳥取市川端二丁目125
 鳥取不動産会館1階
 (公益社団法人鳥取県宅地建物取引業協会内)

お気軽にご相談ください **相談無料**
☎ 0857-24-0550
090-2299-4585
 FAX 0857-26-5799
 E-mail kasseika-t@tottori-takken.or.jp



イメージキャラクター 「住もう鳥取関」

鹿野街道筋振興会

子供たちの地域愛を育む 手作り『紙芝居』



〈鹿野街道筋振興会のみなさん〉
ひぎち かつみ ささき まさと ふくた ゆきや なかの たつひさ
引地 勝己 さん、佐々木 雅人 さん、福田 敬也 さん、中野 達久 さん

紙芝居を使った取り組みをさ
れていますね。
福田さん「もともと『鹿野街道まつり』では、図書館などから借りた本や紙芝居の読み聞かせをやっていました。が、集まる子供たちにもっと特別な思い出を与えたい、という思いから、地域をテーマにした

オリジナルの紙芝居を作ることになりました。その制作にあたっては、メンバーがそれぞれ得意分野で力を合わせていこうと、自然な流れでした。
佐々木さん「私は絵を描くことが好きなので、イラストを担当しました。」



引地さん「私は建具屋なので、木枠を作る、という感じでしたね。」
福田さん「そして読み手は、醇風小学校の生徒やその保護者の方々で構成している『醇風文庫』というグループです。地元の人たちの協力で成り立っているんですよ、この紙芝居は。」
—— 昨年に続き、今年は第二弾の新作を制作されたそうですが。
中野さん「今年の第6回『鹿野街道まつり』で披露しました。昨年は『こうふちくわマン』というキャラクターが、主人公の『しかお君』に昭和初期の鹿野街道の様子を紹介するという内容でした。今年は『あちくわマン』というキャラクターが『鳥取大火』の様子を紹介しました。鳥取大火をテーマに選んだのは、当時の醇風小学校の校長先生が残した大火当日の日記が実にリアルで、マチの被災の状況がよく伝わるものだったからです。」
引地さん「この作品は準備期間も短くて大変でしたが、これはぜひ地元の子供たちに伝えていかなければいけないと思いました。」
福田さん「大災害という史実です

地域への誇りを再認識できました。今後も、地域のことを伝え、継承していくことが大切だと考えています。

から、いろいろな資料をかき集めて勉強することから始めました。そして、これをかみ砕いて子供にも分かるシナリオにするのが難しかったですね。」
佐々木さん「また、イラストも苦労しました。なにしろ資料となる写真が白黒なので、当時の建物の色がわからず、情報収集に苦労しました。」
—— 大変な苦労をされて制作された紙芝居ですが、反応は？
引地さん「それまでは本の読みきかせなどは、子供が集まるだけだったのですが、紙芝居をするようになってからは、大人の反響が多くなりました。」
中野さん「学校の先生に、郷土の歴史の勉強になると言っていたきました。12月には醇風小学校で紙芝居をやる予定です。紙芝居の枠を超えて教材ですよ（笑）。また、この紙芝居を通してみんなに地元の歴史を知ってもらい、地域愛を育んでもらえたらうれしいですね。」
—— ありがとうございます。



鹿野街道筋振興会 会長
ちむら なおみ
千村 直美 さん

ぼくらのじまん『紙芝居』

紙芝居の読み手を経験した醇風小学校5年生の生徒に聞きました。
—— どこで上演しましたか？
「鹿野街道まつりや公民館です。」
—— 観客の反応は？
「みなさんに良かったと言ってもらえました。12月には全校生徒の前で上演します。さらに『ふれあいまつり』から上映依頼もきています。」



鹿野街道まつりの様子



地区のことがよくわかった
楽しかった
左から
4年 福田 碧人(ふくた あおと) さん
5年 小谷 ほのか(こたに ほのか) さん
5年 石井 想葉(いしい そよ) さん

受講生の軌跡

1
日目

開校式～ ユニットワーク

開校式で講師、講師サポートが発表された後、受講生たちは3つのユニットに分かれます。他のメンバーとの自己紹介が済むと、まずは、まちに出ます。対象となる物件のオーナーにお話を聞き、周辺の様子やまちの面白いものなどを探していきます。



2
日目

ユニットワーク

朝からユニットワークを続けます。夕方のショートプレゼンテーションでは、講師の話や鳥取の家賃事情、路線価などを参考に事業プランを提案。しかし講師陣からは厳しい指摘も飛び交いました。

今夜は何が何でも作り上げなければならない！最終日の公開プレゼンテーションに向け、寝る間も惜しんで討論、作業が繰り返されました。



3
日目

公開プレゼンテーション～ 閉校式

公開プレゼンテーション！各対象案件のオーナーさんをお招きし、3つのユニットがそれぞれに熱い思いを持ち、真剣に検討した事業計画を提案しました。受講生の中から、「私がこの事業やります！」という宣言も飛び出し、拍手喝さいを浴びました！



リノベーションによる まちづくり

vol.2

リノベーションスクール@鳥取が平成26年11月22日(土)～24日(月・振)の3日間、開催されました。最終日の公開プレゼンテーションには約200名の方が会場に集まり、大盛況のうちに終わりました。



RENOVATION SCHOOL
@TOTTORI

リノベーションスクール@鳥取

スクールとは…
ユニットマスター(講師)サブユニットマスター(講師サポート)、受講生10名程度、サポートスタッフで1つのグループ(ユニット)となり、空き物件(遊休不動産)に対してまちに必要なもの、そこできかないことはなにかを考えた、まちの新たなコンテンツとなるような活用方法、事業計画を作成します。最終日には、物件オーナーにプレゼンテーションを行い、事業化へとつなげていく本気のプログラムです。



講師陣紹介



ユニットマスター・レクチャー
嶋田 洋平 さん
株式会社らいおん建築事務所代表取締役 / 株式会社北九州家守舎代表取締役



ユニットマスター・レクチャー
大島 芳彦 さん
株式会社ブルースタジオ専務取締役 / 建築家



プログラムディレクター
江口 亨 さん
横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授



スクールマスター
清水 義次 さん
株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役 / 建築・都市・地域再生プロフェッサー



サブユニットマスター
山根 卓也 さん
角輪工業株式会社



サブユニットマスター
高藤 宏夫 さん
コモン建築事務所代表



サブユニットマスター
本間 公 さん
工作社代表



レクチャー
青木 純 さん
株式会社メゾン青樹代表



ユニットマスター・レクチャー
吉里 裕也 さん
SPEAC,inc 共同代表 / 東京R不動産代表ディレクター

家守 会社

やもり

今回のスクールでは、受講生の中から橋本悦さんと岡田良寛さんの二人(写真左)が、リノベーションの実現に向けて名乗りを上げました。



おかだ りょうかん 岡田 良寛 さん
はしもと えつ 橋本 悦 さん

しかし事業化するには提案された内容の精査や、物件オーナーと具体的に協議を進める組織『家守会社』が必要となります。その会社を立ち上げる中心メンバーであり、今回のスクールのサブユニットマスターを務めた(写真右下、右より)、本間さん、高藤さん、山根さんの三名と市担当者谷口主幹に話しを伺いました。



今回のスクール会場であった旧コトブキ家具店にて

スクールを終えて...

本間さん「スクールを終え、ワクワクする感じを覚えます。」

高藤さん「はじめネガティブだったオーナーの気持ちが大きく変わる瞬間が印象的でした。みんなの熱意や前向きな気持ちを感じました。」

山根さん「今後は、出てきた提案をもう一度整理して、実行できる計画を検討しなければなりません。継続できる組織をつくるのはとても大変ですが、ひとつずつ実現していきたいと思っています。」

本間さん「第一号の成功例を提示できればいいですね。」

山根さん「そして、次にまた別の家守会社を立ち上げてもらえたらいいですね。」

谷口主幹「家守会社」が事業をスムーズに進められるようサポートしていければと思います。」

みなさんに向けたメッセージ

谷口主幹「まだまだ可能性があります。気軽に声をかけて欲しいです。」

高藤さん「リノベーションは最先端のムーブメント!」

山根さん「自分たちのまちをあきらめないで、一緒にやろう!」

本間さん「流通していない物件を活用する仕組みが大切!」

全員「今回のリノベーションスクールにぜひ参加してください!」



対象物件オーナーの1人
阿部 さん

「私の家業とライフワークが見ごとに合わさった提案に鳥肌が立ちました!」

